

# 22PO-am386

## 市民組織と協働で行う地域小学生対象の理科実験講座～身近な夏の不思議体験 2018 イン山科～

○徳山 友紀<sup>1</sup>, 高尾 郁子<sup>1</sup>, 大谷 有佳<sup>1</sup>, 千原 佳子<sup>1</sup>, 高田 哲也<sup>1</sup>, 河野 享子<sup>1</sup>,  
平山 恵津子<sup>1</sup>, 木村 徹<sup>1</sup>, 藤原 洋一<sup>1</sup> (<sup>1</sup>京都薬大)

【目的】京都薬科大学では 2011 年度から地域児童を対象にした理科実験講座を市民組織と協働で実施している。本講座は身近な科学を題材とした実験を通して、児童の理科への興味喚起と継続を目的としている。今回実施した「身近な夏の不思議体験 2018 イン山科」について実施内容およびアンケート調査結果を報告する。

【方法】今年度は身近な『水』に着目し、①「手でつまんで持てる水！容器がいらない水を作ろう」、②「水が消えた！？水を吸う魔法の粉」、と題しアルギン酸ナトリウムや高吸水性ポリマーを使用した実験を行った。実験内容の立案は本学で実験実習教育を担当する学生実習支援センターが行い、対象学区小学校への募集案内・参加児童の選定は市民組織「山科区『はぐくみ』ネットワーク実行委員会」が行った。小学 4～6 年生を対象に、定員 64 名の実験講座を午前・午後の 2 回行うこととし、市民組織の方々にはサポートスタッフとして参加していただいた。今年度は実験を始める前に児童に疑問を持たせ、より内容に興味を持ってもらえるよう、班ごとにスタッフによる実験のデモを取り入れた。講座終了後、参加児童ならびにスタッフにアンケート調査を実施した。

【結果・考察】台風による日程変更等により参加児童は 101 名であった。児童のアンケートより「理科を身近に感じた」が 97%、「今日実験したことを家でもやってみようと思う」が 95%という結果が得られ、本講座が児童の理科への興味を持つきっかけになっていることが示唆された。また、今年度実施した実験のデモについてはスタッフアンケート（回答数 34）より、「とても（まあまあ）よかった」が 100%と好意的であり、「児童の興味を引くことができた、距離が縮まった」などのコメントも多く、動機付けならびに雰囲気作りの効果も得られた。